

# 数字の小道 すうじのこみち

## ③ライブ・エンターテインメントの観客動員数

総務部調査企画課

### ・沖縄におけるライブ・エンターテインメントの動向

近年、日本のミュージックシーンの中で、沖縄県出身のミュージシャンの活躍が著しく、沖縄が一つのカテゴリーとして全国でも注目されてきています(表1参照)。

特に平成14年に、モンゴル800のアルバム「メッセージ」がインディーズとして初のミリオンセラーを記録して以来、沖縄を拠点として活動するアーティストの活躍も目立ち始めています。

音楽業界の関係者からのヒアリングによると、沖縄の人は日常生活の中で、民謡等に触れる機会が数多くあり、こつこつとした土壌の中から独特の感性が養われ、ミュージシャンとしての礎が築かれるほか、音楽センスが高い聴衆が育まれ、これがまたミュージシャンの技術力の向上を招くシナジー効果を生んでいるものと思われる。



表1：最近10年間の沖縄県出身アーティストの主な活躍

安室 奈美恵	1996年発売のアルバム「SWEET 19 BLUES」を含むアルバム3作品、シングル5作品ミリオンセラー達成
MAX	1996年発売のアルバム「MAX」を含むアルバム2作品ミリオンセラー達成
SPEED	1997年発売のアルバム「Sarting Over」を含むアルバム4作品、シングル6作品ミリオンセラー達成
Kiroro	1998年発売のシングル「長い間」、アルバム「長い間～kiroroの森」ミリオンセラー達成
DA PUMP	2001年発売のアルバム「Da Best of Da Pump」ミリオンセラー達成
BEGIN	2002年発売のシングル「島人ぬ宝」ヒット、紅白歌合戦初出場
夏川りみ	2001年発売のシングル「涙そうそう」ヒット、2002年紅白歌合戦初出場
モンゴル800	2001年発売のアルバム「MESSAGE」ミリオンセラー達成
HY	2003年発売のアルバム「Street Story」ミリオンセラー達成
ORANGE RANGE	2004年発売のアルバム「musiQ」を含むアルバム2作品、シングル1作品ミリオンセラー達成
D-51	2005年発売のシングル「NO MORE CRY」ヒット、紅白歌合戦初出場



インディーズバンドの人気も手伝って平成13年以降目立つた増加を続けています。今年には6000人に到達したようです(図1参照)。

今年も7月1日、2日に沖縄市でピースフルラブ・ロックフェスティバルが開催されました。観客動員数は、モンゴル800に代表される

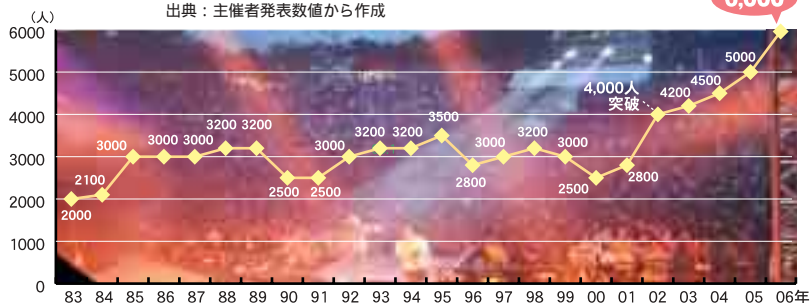
演劇分野においては、昨年の佐敷町民ミュージカルが話題になったほか、地元劇団の沖縄芝居や演劇などが話題となっています。特にうるま市(旧勝連町)の中高生が演じる現代版組踊(肝高(たか)の阿麻和利(あまわり))は、平成12年の初上演以降、昨年までに公演回数80余回、観客動員数は延べ6万人を越え、県外からのリピーターも見られるなど、人気となっています(表2参照)。

表2：「肝高の阿麻和利」公演実績(あまわり浪漫の会調べ)  
※会場の規模により入場者数に差がある。

年度(イベント回数)	観客動員数 <small>人</small>
H.12 (4回)	8,000人
H.13 (5回)	2,500人
H.14 (17回)	9,400人
H.15 (21回)	15,759人
H.16 (21回)	22,312人
H.17 (13回)	6,550人
計 (81回)	計 (64,521人)

図1：ピースフルラブ・ロックフェスティバル観客動員数の推移

出典：主催者発表数値から作成





「音市場」完成イメージ（夜景）

## ・沖縄市のミュージックタウン構想

沖縄市には、戦前から地域住民に親しまれてきた「エイサー、京太郎（ちやんた）」などの伝統芸能があり、それらは戦争という過酷な状況を潜り抜け、戦後、地域の文化や民衆娯楽として復興を遂げました。また、ジャズやロックなどアメリカ文化の影響を大きく受け、多彩なジャンルの音楽芸能が醸成され、多くのミュージシャンを輩出しています。

現在、沖縄市内にはライブハウスや民謡酒場が数多くあり、週末は音楽好きで賑わいます。また、ピースフル・ロックフェスティバルやコザ音楽祭、沖縄音楽市など様々な音楽イベントが開催され、このような環境の中から沖縄民謡とポップスを融合させたバンドなど新しい音楽性をもった若い世代が台頭しています。

域提案型雇用創造推進事業）を実施しています。

平成19年7月には、沖縄米軍基地所在市町村活性化特別事業を活用して整備中の施設「音市場」のグランドオープンを予定しており、これを核としてミュージシャンの育成だけでなく、その他関連分野の人材育成を支援する体制を整え、CDやパッケージ作成をはじめ、関連グッズの制作等による音楽の産業化に向けて取り組むこととしています。

## ・今後の可能性

音楽市場調査会社「エス・アイ・ピー」のまとめによると、インディーズの市場占有率が平成11年2.5%から平成15年8.1%までに伸びています。これは、録音技術の進歩（デジタル化）により、従来の1/10程度の低コストでアーティスト自身がCD等を自主製作できるようになっていることが大きく寄与しているようです。いわば、音楽活動の場が従来のように、音響設備が整っている東京のような大都市一極集中型から、地方都市にも拡大していることがうかがえます。

このようなことを背景に、沖縄市では、音楽等地域の文化資源を活用した新文化産業の創出により地域の振興を図ることを目的として、平成17年に地域再生計画「国際文化観光都市チャンプルー・ルネッサンス計画」の認定を受け、「音楽ビジネス振興を軸とした観光のまちづくり人材育成事業」(地

また、ぴあ総合研究所の調査によると平成12年以降、音楽コンサートや演劇などのライブ・エンターテインメントの動員数や市場規模はいずれも増加基調にあります(図2参照)。音楽市場では、野外ロックフェスティバルが飛躍的に拡大し、また、演劇市場ではミュージカルや古典芸能が好調に推移しています。

これらのことから、音楽や演劇などのエンターテインメント産業に着目し、これらの地域資源を活用して地域の活性化に結びつける取組みは、地域振興の一つとして期待できます。

本誌3月号(なかゆくい)で紹介したとおり、観光客の30.2%が「沖縄の文化(祭り、イベント、工芸、食など)を楽しむ」という目的で沖縄を訪れています。実際に沖縄でのコンサート観客の1/3から1/2は本土からの観光客とも言われています。観光ニーズが多様化する中で、音楽コンサートや演劇などのライブ・エンターテインメントが沖縄観光の新たなメニューの一つになることは十分に期待されます。

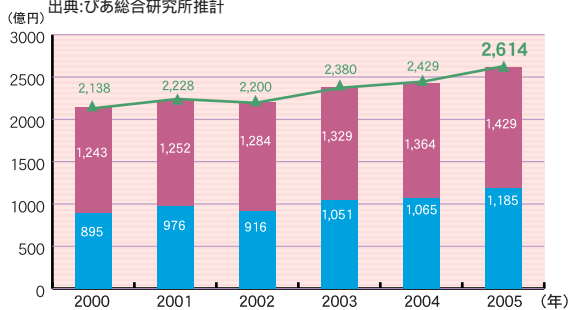
また、今回取材した現代版組踊「肝高の阿麻和利」を主宰する「あまわり浪漫の会」の場合、地元の小中学生が演じることで、地元の歴史・文化を

再確認することができ、地元に対して誇りをもち始めたそうです。また、先輩達が後輩へ積極的に指導したり、子供たちが自身が自主的に工夫を取り入れていくなど、子供たちの自主性や積極性を養うことにもつながっており、地域の子供たちの健全な育成に役立っていることも注目される点です。

(調査企画課 石川正之・伊波沙耶佳)

図2：ライブエンターテインメントの市場規模

出典：ぴあ総合研究所推計



## インディーズとは

※日本レコード協会会員の大手企業が製作、全国に流通させている「メジャー系音楽」に対して、大手に属さない音楽会社や音楽会社所属のアーティストから生まれた音楽、レコード会社と契約していないアーティストが自主制作する音楽を「インディーズ」と呼ぶ。